



PTA かながわ



発行者 神奈川県PTA協議会

事務局 横浜市神奈川区神之木台22-14 県青少年課神之木台分館内 TEL.045-431-6583 FAX.045-430-5025 印刷所 株式会社コンパス

平成26年11月29日(土) 小田原合同庁舎にて
足柄下ロック研修会を開催しました。当日は、各単位PTAより2名、西湘地区教職員組合より10名、総勢80名の参加をいただき、講演会とグループ討議を行いました。

第1部では、インクルーシブについて、神奈川県教育委員会 特別支援教育課 グループリーダー兼指導主事の田中宏氏にご講演いただき、説明に、参加者から自分の子どもは授業中に席を立ってしまう。今日の話から支援の必要な子どもだと知り、勉強になった。との感想がありました。

第2部では、7、8名のグループに分かれ、カッショーンを行いました。いくつかの意見を紹介します。

「学校での先生との接し方について」
小学校の先生には親しみを感じ、些細なことでも相談しやすいが、中学校の先生とは距離を感じ、相談が多いので、もう少し先生と話す機会がほしい。

一部の保護者のなかにはモラルが悪い保護者もいて、学校側も対応に困ることがある。

「ちよと照れくさいですけど…」
あなたが赤ちゃんの頃、私たち親は「笑った!」と喜び、ハイハイができると褒め、歩いたしゃべつた、あなたが何をするたびに大喜びでした。それが、いつのまにか、「早くしない」と怒り、「ちゃんとしない」と叱ることが多くなり、あなたが笑顔で大きくなるにつれてお互いが笑顔でじゃれあうこともなくなりました。

「生きよう勝手だ!」なんて叫んで寝るところが叫てもくれない。自分の力で立ち上がりれるようにならぬことも、親や先生、周りの人たちにはあなたのことを心配しています。万が一、傷つくようなことがあってたら命がけで守ります。卒業（進級）保育の皆さん、卒業（進級）おめでとうございます。そして、何よりもあなたたちを褒めたり、笑顔で接するて、ちよと照れくさいであります。そして、何よりもあなたたちを褒めたり、笑顔であります。そのため、卒業（進級）おめでとうございます。大きく成長した子どもたちが、自分の人生に誇りを持てるよう心の底から願っています。

「ちよと照れくさいですけど…」
あなたが赤ちゃんの頃、私たち親は「笑った!」と喜び、ハイハイができると褒め、歩いたしゃべつた、あなたが何をするたびに大喜びでした。それが、いつのまにか、「早くしない」と怒り、「ちゃんとしない」と叱ることが多くなり、あなたが笑顔で大きくなるにつれてお互いが笑顔でじゃれあうこともなくなりました。

「生きよう勝手だ!」なんて叫んで寝るところが叫てもくれない。自分の力で立ち上がりれるようにならぬこともあります。そのため、卒業（進級）おめでとうございます。大きく成長した子どもたちが、自分の人生に誇りを持てるよう心の底から願っています。

「ちよと照れくさいですけど…」
あなたが赤ちゃんの頃、私たち親は「笑った!」と喜び、ハイハイができると褒め、歩いたしゃべつた、あなたが何をするたびに大喜びでした。それが、いつのまにか、「早くしない」と怒り、「ちゃんとしない」と叱ることが多くなり、あなたが笑顔で大きくなるにつれてお互いが笑顔でじゃれあうこともなくなりました。

「生きよう勝手だ!」なんて叫んで寝るところが叫てもくれない。自分の力で立ち上がりれるようにならぬこともあります。そのため、卒業（進級）おめでとうございます。大きく成長した子どもたちが、自分の人生に誇りを持てるよう心の底から願っています。

「ちよと照れくさいですけど…」
あなたが赤ちゃんの頃、私たち親は「笑った!」と喜び、ハイハイができると褒め、歩いたしゃべつた、あなたが何をするたびに大喜びでした。それが、いつのまにか、「早くしない」と怒り、「ちゃんとしない」と叱ることが多くなり、あなたが笑顔で大きくなるにつれてお互いが笑顔でじゃれあうこともなくなりました。

「生きよう勝手だ!」なんて叫んで寝るところが叫てもくれない。自分の力で立ち上がりれるようにならぬこともあります。そのため、卒業（進級）おめでとうございます。大きく成長した子どもたちが、自分の人生に誇りを持てるよう心の底から願っています。

神奈川県PTA講演会

平成27年1月22日(木) 講師「大河内 美和」氏 ザ・ウイングス海老名にて

「すべての家庭のためにー前向き子育てのヒント」

大河内美和氏をお迎えして、トリプルPプログラムのお話を伺いました。

トリプルP(PPP)の3つのPは、Positive Parenting Program を意味し、日本では前向き子育てプログラムと呼んでいます。

トリプルP=前向き子育てプログラムは、オーストラリアのクイーンズランド州で開発され、世界15カ国以上で実施されている親向けの子育て支援プログラムです。子どもの発達を促しつつ、親子のコミュニケーション、子どもの問題行動への対処法など、それぞれの親子に合わせた方法に変えていくための考え方や具体的な子育て技術を学ぶプログラムです。

子どもの会話と言語力を養い、社交技術、友人関係や自分感情コントロールを身に着ける上での欠かせないものは、家庭です。

しかし、親が子育てで難しいと感じることは、これだけやっていたらうまくいくという方法がないこと、子育てに関するたくさんの情報があること、周りに親の手本になる人がいること、親の役割が多様化し、他の役割と親の役割のバランスを保つのが難しいなどを挙げられます。

また、思春期の子どもを持つ親は、今まで通りの接し方では通用しなくなり、戸惑う親が多いようです。思春期の子どもは、大きい転換期を迎えており、身体・精神面が飛躍的に成長します。脳は、発達中で半分大人、自分のアイデンティティを模索し、色々なことに疑問を持つことで、小さい時の親子関係から脱し、思春期の子どもとの新しい関係を見つける必要があります。

トリプルP前向き子育てでは、セミナー・グループ・個別の異なる形態で実用的な子育て家庭支援システムを行います。では、具体的にどのようなプログラムなのかを紹介します。

△子育てのヒントトップ10△

- ①子どもが親に何か見てほしい時、手を止めて注目を与えましょう。短い時間、なるべく頻繁に子どもと一緒に楽しめることをして時を過ごすのは大切です。
- ②子どもに多くの愛情を示しましょう。抱きしめる、手をつなぐなどの愛情表現を子どもは好みます。
- ③子どもが興味を持っていることについて子どもと話しましょう。そして、自分がどの日何が起つたのか話を下さい。
- ④子どもにもっとしてほしいと思っていることを子どもが実際にしていたら、描寫的にたくさんほめましょう。「頼まれたことをすぐにしてくれてありがとう。」という感じです。
- ⑤子どもは退屈な時に難しい行動起こしやすいものです。屋内・屋外でできる活動をたくさん用意しましょう。ブロック、塗り絵、ダンボール箱、好きなキャラクターの仮装などが例です。
- ⑥子どもに新しい技術を教える時は、まず自分が見て、それから子どもにその技術を練習する機会を与えてましょう。例えば、家庭でお互いを尊重する話し方をします。そして、子どもはそのように話をすることを薦めます。(例:「ありがとうございます。」子どもの努力をほめましょう。)
- ⑦子どもの行動について明確なルールを作りましょう。家族会議を開いて、家庭でのルールについて話し合いましょう。ルールが破られた時にどうなるか、子どもに伝えます。
- ⑧子どもが好ましくない行動を取った時は、落ち着いて、好ましくない行動をやめるように言い、そして代わりに何をしてほしいか伝えます。(例:「ケンカをやめなさい。仲良く遊びなさい。」)子どもが好ましくない行動をやめた場合は、もしやめなかった時は適切な結果を用いて対応します。
- ⑨現実的な期待を持ちましょう。どんな子どもも時には好ましくない行動をとりますから、しつけの苦難を時々経験するのは避けられないことです。完璧な親であろうと、自分自身をイライラや挫折感に追いかけています。

- ⑩自分自身のケアをしましょう。ストレスを感じていたり、不安や落ち込んだ感情を抱えていると、落ち着きリラックスした親であることが難しくなります。できれば週に一度、息抜きをしたり自分が楽しめることをしたりしましょう。
- ◇思春期の子どもを持つ親のためのヒントトップ10◇
- ①子どもになってほしい大人に、親自身がなるよう努力する。手本を積極的に示しましょう。日々の生活で自分が何をしているか、何を(どんなふうに)言っているかじっくり考えてみましょう。
- ②本当に大切な物事にエネルギーを使う。特に子どもと意見が合わないことが多い場合は、意見が合わない時のいつもの決まり反応や直観的な反応は避けましょう。すぐに反応する代わりに、考える時間を持つて、長い目で見てこの問題は重要なかどうか考えます。また他の反応の方も考えましょう。
- ③思春期の子どもの脳は、過敏に反応しやすいことを覚えておく。子どもと話したいときは、思春期の子どもに起りやすい、自動的な「戦うか逃げるか」の反応を引き起こさないように努力しましょう。子どもに今話してもいいタイミングが聞きましょう。座って穏やかな声で話します。子どもの気持ちについて知りとしましょう。
- ④タイミングが肝心。問題と思われるについて話すときは、全員が落ち着いている時、リラックスしている時、忙しくない時、ストレスを感じていない時、また急いでいない時にしましょう。家族会議の予定を立てて、家族仲良くなるように、落ち着いて問題について話し合うことを家族で同意しておきましょう。
- ⑤子どもがよくない行動を取った時は、落ち着いて、好ましくない行動をやめるように言い、そして代わりに何をしてほしいか伝えます。(例:「ケンカをやめなさい。仲良く遊びなさい。」)子どもが好ましくない行動をやめた場合は、もしやめなかった時は適切な結果を用いて対応します。
- ⑥現実的な期待を持ちましょう。どんな子どもも時には好ましくない行動をとりますから、しつけの苦難を時々経験するのは避けられないことです。完璧な親であろうと、自分自身をイライラや挫折感に追いかけています。



玉野会長 あいさつ

「講演内容、記事についての問い合わせ先」

神奈川県PTA協議会事務局
TEL:045(431)6583 FAX:045(430)5025

足柄下ロック研修会

平成26年11月29日(土) 小田原合同庁舎にて
足柄下ロック研修会を開催しました。当日は、各単位PTAより2名、西湘地区教職員組合より10名、総勢80名の参加をいただき、講演会とグループ討議を行いました。

昨年、県教育行政より案内のありましたインクルーシブ教育に対し、今後実施される特別支援級と普通級との再編に、私たち保護者の間違った認識を持たせないために共に基盤知識を学び、差別的な発想を辛い思いをするかも知れない子どもや保護者を少しでも減らせばと思い、開催しました。当日は、県教育行政スタイルの講演を派遣していただき勉強会で、現在、県PTA役員内で参加者から聞いた声を共有し、各ロックでも研修会をしており、担当役員としてとてもとてももうれしく思います。皆さんから少しだけでも研修会をしてくれたら、子どもたちももううれしいかも。



県教委子ども教育支援課・講師の実演をはじめた講演の様子

足柄下ロック研修会の実績として、湘南ロックでは1月23日(金)に茅ヶ崎市民文化会館ホールにて「インクルーシブ教育の取組み」を報告いたしました。当日は約200名の参加がありました。(今回1/3は教職員の方々でした。)

湘南ロックでは1月23日(金)に茅ヶ崎市民文化会館ホールにて「インクルーシブ教育の取組み」を報告いたしました。当日は約200名の参加がありました。(今回1/3は教職員の方々でした。)

足柄下ロック研修会は2部構成で実施し、第1部では神奈川県教育委員会子ども教育支援課より「神奈川県教委会子ども教育支援課」講師の実演をはじめた講演の様子

湘南教委会子ども教育支援課・講師の実演をはじめた講演の様子

第2部では、藤沢市立白浜養護学校校長・首藤み氏、藤沢市立白浜養護学校副校長・正樹氏にも参加いただき、社会福祉法人光友会評議員・NPO法人ボトビ理事武村雅夫氏の「コーディネーターにより保護者学校行政それぞれの立場でパネルディスカッションを行いました。

第2部の前半は、自己紹介を兼ねて首藤み氏に

「先生と子どもの距離感について」
先生と子どもが友達のように接しているが、けじめが無いように見える。

けじめが無いように見える。
小学生の高学年になると、対応が難しいのが現状。だからといって、友達のように接して良いとは思っていないので、「けじめ」「尊敬」が大事で、ある認識で指導が大事です。

「小学校のトイレ掃除について」
学校によってはトイレ掃除を子どもにさせないが、自分たちが毎日使っているトイレなので、自分たちで掃除するようにしてほしい。

自分たちで掃除するようにしてほしい。学校だけでなく、家庭でもそのように指導してほしい。

「中学校の部活について」
学校によっては種類が少ないのですが、もう少し種類を増やすや選択の幅がほしい。

運動部については安全面も配慮しなくてはならないので、すぐには対応できない。そのほかにも、多数の意見が出て、保護者・先生ともに、わざわざ話し合いをしてほしい。本研究会では、お互いを理解し合い、子どもと親の立場で、自分の立場で何ができるかを考えるところです。本研究会では、お互いを理解し合い、子どもと親の立場で何ができるかを考えるところです。

1年、2年、5年経験者の対象の「ファーストキャリア」アドバイス研修と10年、25年経験者の「アドバイス研修」と分かれています。教職員経験に応じた基本研修は、初任者から指導主事、若杉真由美先生をお迎えして、教師として成長、続けるために「出会い」と「人と人とつながり」を大切にしています。

今年度決議されたPTA宣言の行動指針で、経験の浅い先生に対して、保護者や地域の大人们が未熟さを批判することなく、それの経験を生かし、将来を見据えて育成に協力していく姿勢を打ち出しています。団塊の世代が定年退職を迎え、世代交代により新しく採用される教職員が増えてきています。

そこで具体的な経験談を交えて、保護者の理解をより深めようとする趣旨をもつて、中学校の部活で、教職員が増えてきています。中学校でのピントを持った帰り皆さんにお話を聞いています。今号のレポート記事が会員の皆様の心に届く事を願っております。これからも、皆さんが熱心な会場で、参加することができました。

お子さんの通っている学校でも成人教育委員さんや、担当の「家庭教育学級」があります。現代を生きる事であります。今回講演会に参加ししレポートを提出いただいた役員の皆さんもお話を聞いています。近な講演会から参加していだける事であります。今回講演会に参加して頂ければ幸いです。そこで、お役立て頂ければ幸いです。

お子さんの通っている学校でも、身近なところで皆さんが新しい知識を定めています。近な講演会から参加していだける事であります。そこで、お役立て頂ければ幸いです。

お子さんの通っている学校でも、身近なところで皆さんが新しい知識を定めています。近な講演会から参加していだける事であります。そこで、お役立て頂ければ幸いです。